

ナガルコットの初日の出 Happy New Year from Land of the Himalayas !!

一昨年末、私はカトマンズの東にあるナガルコットの丘に2泊3日のミニトレッキングに出かけた。「朝日のナガルコット」と言われるこの丘から見るヒマラヤの山々はとても荘厳な雰囲気を感じ出していた。1997年の初日の出は、美澄と2人でここから見ようと心に誓った。因みに、あの猿岩石がユーラシア大陸横断の旅でネパールに立ち寄った時、エベレストが見たいと思ってヒッチハイクで訪れた山がナガルコットだと思われる。

ネパール暦の新年は4月頃に来るので、西暦の1月1日はネパール人にとっては平日であるが、私達にとってはやはり特別な日だ。ましてや、私達は結婚以来初めて2人で過ごす元日の朝だった。ちょっとリッチにいろいろということで、ナガルコットでいちばんまともなClub Himalaya Nagarkot Resortにディナー込み5500ルピー（高い！）で宿泊した。ナガルコットは自宅から車で1時間半、舗装された道路で我が愛車カローラセレスでも簡単に行くことができる。

Club Himalayaの立地はとにかく最高。元日の朝は雲一つない快晴で、ヒマラヤの山々がやがて来る朝日に赤々と染まり、刻一刻とその色を変えてゆくのが幻想的だ。午前7時、エベレストの東に太陽が現れる。とても幸せな気分。今年1年の幸福を祈る。今年は美澄が風邪をひいていて大変だった。来年は子供を連れて来るのが楽しみだ。でもClub Himalayaのサービスは最低。こんなサービスじゃあ他の人に簡単に薦められないのが残念だ。

さっそく今年の走り初め。海拔2000mでの登り坂はさすがにきつかった。

(浩司)

どうしてそうなるの？ 人の噂話はコワ～

先日最後のタイの買い出しの荷物引き取りにJICA事務所に行き、他の専門家の奥様方と荷物の仕分けをしている時、ある人から浩司さんの頭が何故坊主になったかと言うことを聞きました。その方は初めて浩司さんに会ったとき、刈りたての頭を見て坊主頭にする趣味がある人なのだと思いますが、次に会った時髪が伸びていたの、何故坊主頭になったのか不思議に思い、理由を人に尋ねたらしいのです。

その内容は、「トレッキングに行く前に髪を短くしようと思い、奥様が髪を切ったのだけれども手が滑って一部分だけ短くなってしまったので、ついだからということで全部坊主にしてしまった。」ということでした。

実際は、「トレッキングに行くにあたって、本人が坊主にするというのでバリカンで刈った。ただ、浩司さん自身は長さの選択が幾つかあるなかで一番短い3mmに刈られるとは思っていなかったけど・・・。」というのが真実です。

この話を聞き、噂話というのは、話だけが一人歩きをして全く違った結果になるのだということを知りました。この話はあまり害がないので面白かったけれど、悪い噂だったら笑っていらなかったでしょう。

もう一つ面白い理由は、「浩司さんが浮気をしたのがバレてその懺悔に坊主にした。」というものでした。いずれにしても浩司さんの坊主頭は周囲に色々な話題を提供したようです。

(美澄)

丸坊主の最大のメリットは、事務所の内田君と間違えられなくなったことです。

(浩司)

シータにお化けが憑いた（2） その後わかったコワイ話

以前我が家の使用人シータが祈祷師にお払いをしてもらった話を書きましたが、その後赤ちゃんも流産してしまったし、3人もの子供が亡くなるなんて何か悪い霊が憑いているのではないかと思い、他からのアドバイスもあり改めて腕の良い祈祷師に見てもらうことにしました。

ネパール滞在が長く詳しい日本人いわく、ネパールには妬みから人を呪うことがよくあるそうです。そうやって呪うと生き霊が憑いた状態になり、憑かれた人は体調を崩したり良くないことが起きるようになるということでした。特に、ネワールという民族が多い地区ではよくあるらしく、私達の住むパタンやバクタプールなどではよく聞く話だそうです。生き霊が憑いた場合、腕の良い祈祷師が見ると、誰が呪ったかわかり霊を落としてくれるそうです。

今回シータ達が見てもらった祈祷師は、日本人の家で働いているメイドがよく行くところで、以前短期専門家に来ていた日本人に霊が憑いた時、これを祈祷で落とされた人で、今回はシータだけではなく夫のKCも見てもらいました。

その結果、KCとシータ2人とも生き霊が憑いていたのです。KCは、腰や関節が痛くなり、食べても太らないように呪いがかけられていて、シータは子供に悪いことが起きるような呪いがかけられていたそうです。シータはまだ子宮筋腫もあり体調が完全ではないので、手術が終わってから改めてお払いをするそうですが、KCは3日かけてお払いをしてもらいました。呪いはKCの出身地のバクタプールに住む近所の人にかけてたとのことでした。お払いをしてもらった後、KCは体が軽くなったそうです。これでしばらく悪いことが起きなければよいのですが・・・。

この話を聞いて、ネパールにはまだまだ目に見えない不思議な話が生きているのだと実感しました。それにしても、妬みから人を呪うことが日常茶飯事なんて怖いですね。

なお、この呪いは日本人に対しては鈍感になっているので効かないとのことなので一安心です。

(美澄)

私の仕事紹介（その10） なぜこんなに来訪者が多いのだろうか？

11月からの2カ月間に私が多少でも関与した日本からの来訪者の数は11件にもなる。内 JICA の調査団は5件のみだが、他にもいろいろ日本から来訪者がやって来て、いつの間にか帰ってゆく。中には、大学の先生がゼミ生を連れて来て、ネパールの諸事情をレクチャーしてくれというのもあるし、もっとすごいのは、大学のサークル活動の相手をして欲しいなどというのもある。私達が学生の頃は海外に行くなんて夢のまた夢だったが、今時の学生はこんなに簡単にネパールまで来ちゃうのねと感心してしまう。冬休みを利用してスタディツアーを企画する NGO も多い。JICA の広報を通じて便宜供与を依頼してくるのはいいが、折角取ったアポを勝手にキャンセルされたケースもある。

いつも疑問に思うのは、日本からただか 2 週間程度の調査に来て、一体どれだけの成果を得られるのかということだ。ましてや、一番生活が厳しくなる雨季に来ないで、乾季に少し来て車によるアクセスが良い場所を見ただけで、この国の生活の実状はなかなか理解できないだろう。本腰を入れて調査を行うのであれば、やはり現地の事情に精通した現地のコンサルタントを雇うなり、調査員を長期滞在させて情報収集させるなり、もっと効率的調査方法はあるように思う。

各国の援助機関は、現地のコンサルタントを備上して調査を実施したり、現地の NGO と連携して事業を実施したり、当たり前のように行っている。一方、日本はなぜか事前調査も事業立案・実施も事業評価も全て自前でやろうとする。そして、報告書も日本語で書かれ、英語版すら準備されないケースも相当にある。

以前、ユニセフ訪問のアポを取ろうとして、ユニセフの職員から、「JICA はいろいろ調査団を送って来るが、皆ここに同じことを聞きに来て、同じ説明を受けて帰ってゆく。」と皮肉られたことがある。責任は私自身にもあり、私がユニセフの活動内容を事前に把握していれば、こんな所に行かなくても私が毎度毎度のブリーフィングを調査団にすれば済む話だっただろう。現状は訪問すること自体が目的化しているようではないか？調査団の数が減れば、私達がアテンドする時間も少なくなり、私達自身が調査研究員として情報収集にもっと動ける筈なのだが。 (浩司)

やらぬなら自分でやろう 駅伝大会 第1回カトマンズ駅伝競走

物事は、目標がないとなかなか継続的にやることは難しい。マラソンも、日本のようにほぼ毎週どこかで大会が開催されなければ毎日走り続けることは難しい。だが、残念ながらここネパールには、殆ど大会らしい大会がない。

誰かが開催するのをいつまで待っていても誰も始めない。そこで、シャンジャの禿下隊員は、12月上旬の隊員総会の時期に合わせて駅伝やろうと私に持ちかけた。かくして、12月11日（水）、カトマンズ駅伝競走開催の運びとなった。

コースは王宮を1周する2.3kmを4人1チームで走り、各チーム第3走者は女性である。協力隊員で6チームを編成、事務所からは門脇、大野、ウブレティの熟女3人と山田のチーム構成（男性陣情けないぞ！）で参加した。我々の目標は、平日早朝7時スタートのこの駅伝で、9時のオフィスの始業時刻に間に合うようゴールすることだった。

ランシャツ、ランパンにジョギングシューズなんて完全武装の隊員は殆どいない。中には、チャップル（ゴム草履）履きの隊員や、ナース姿の男性隊員、パンジャビドレスで走る女性隊員もいた。受け狙いの隊員を見ているのは楽しい。みんな、思い思いに大会を盛り上げた。お祭り好きのネパール人達も、タスキの中継所周辺にわんさか集まってきた。

さて、肝心の結果だが、序盤から最下位争いを展開した我が JICA オフィスワーカーズも、最下位でタスキを受けたアンカー山田が元バリバリ市民ランナーの意地を見せて6位でゴール、めでたく始業時刻に間に合ったのであった。

第1回大会でいろいろ不手際もあったが、禿下君と私がネパールにいる限り、この駅伝は今後もグレードアップして開催されてゆくことだろう。誰もやらないなら自分達でやろう。そんな気持ちを大切にしたいものだ。 (浩司)

編集後記

★マラソンネタばかりで恐縮ですが、当地では2月22日にカトマンズ国際マラソンが開催されます。目標があった方が人は努力できるということで、今まで不真面目ランナーだった私も、これを目標に本格的に練習を再開しました。美澄が安定期に入っていないことを幸い（？）に、9連休の冬休みはカトマンズに居残り、12月下旬のピラトナガル出張でひいた風邪を美澄にうつし（美澄、ゴメン！）、自分だけさっさと走り込んでいます（美澄、本当にゴメン！）。自宅から南方のダクシンカリ寺院までの15kmのホームコースも開拓し、ネパールの農村を見ながら走る休日が暫く続きそうです。その他、冬休み中は友人から借りたビデオでSMA Pのお勉強をしました。SMA Pの歌も覚ええました。ここネパールにはSMA Pの曲を置いているカラオケ屋がないのが非常に残念です。「蒼い稲妻」は一時帰国時までお預けです。 (浩司)

★年末からひいた風邪が治らず、寝正月になってしまいました。風邪をおして見に行った初日の出はとても美しく行った甲斐があったと思ったのですが、宿泊したホテルのサービスが悪く、いらいらさせられ新年早々怒ってしまい、こんなに短気ではいけないと反省させられた元旦でした。今年は子供も生まれるし、おおらかに前向きに生きていきたいと思えます。それにしても早く風邪が治って欲しいものです。初めて2人で迎える新年なのに浩司さんには申し訳なかったですね。 (美澄)